

山首上人さまご講演

未来を開く道

因果の二法
いんが に ほう



「オシロイ花」

一歩一歩堅実に、未来に向けて進みましょう

「未来の果を知らんと欲せば、現在の因を見よ。

過去の因を知らんと欲せば、現在の果を見よ」

と經典には示されています。

現在の原因の中に、未来の結果はちゃんと含まれています。現在の結果の中に、過去の原因は、はっきり現われています。

「怠らずゆかば千里の果ても見ん

牛の歩みのよしおそくとも」

一日一日を踏みしめて堅実に歩んでゆくことが、輝かしい未来を開く唯一の道であります。

|| 御開山上人御法話資料 ||

将来自分がどういうことになるか、幸せになるのか不幸になるのかといったことは誰もが知りたいものですが、それを知ろうと思うなら「現在の因を見よ」、つまり、自分が今していることを見てごらんなさ

い。いいことをしているか悪いことをしているか、それによって将来は決まるのです。とおっしゃるのです。そして、過去に自分がどういうことをしてきたかを知りたければ、現在の自分の姿を見てごらん下さい。とも言われています。

これは「因果の二法」のお話です。この世界はみな、原因があつて結果があるという、因縁の世界であります。

因縁については、宗教の世界が言うだけではありません。科学の世界でも言うことです。こうしたらこうなるといふ「因果関係」をはっきりさせるのが科学であります。

お医者さんが、この病氣になったのは、こういうことをしてきたから」ということを言います。暴飲暴食をすればおなかをこわす、といったようなことです。

私の高等学校の同級生で政治家になった人ですが、お酒が大好きで、いつもウイスキーをそのままがぶがぶ飲んでいました。そんな飲み方をして大丈夫かな」と思っていましたら、案の定体をこわして、周囲から、これからと将来を期待されていたのに亡くなつてしまった人がいました。こんなことも因縁の法則と云うのでしよう。ただ、科学が云う因縁の法則は、誰がや

とても同じ結果にならないと正しいとされません。誰が何回実験しても同じ結果が出て初めて、因果関係は立証されるのです。

一方、宗教の場合は、誰がやっても同じということにはなりません。一つ一つ、一人一人要素が違うからです。それは何かとということを一口で言い表わすことはできませんが、たとえば人間の命です。たった一つでありますから、この人はこう、あの人はああ、という総合的な研究はできても、私の〃ということになると無理がありません。

人間の命が何度もやり直しのきくものな

ら、実験を繰り返してもいいでしょう。しかし、一度なくしたらそれで終わりです。科学の法則では計り切れません。人間の場合は数値化できないと申しますか、数字や記号に置き換えることができないのです。

〃こういうことで間違いない〃と、きちんと証明できることは科学にまかせればいいのですが、宗教的見地からすると、決まった答えの出ない場合が多いのです。

たとえば私が今ある〃ことについて考えてみましょう。この「因果関係」はいたって複雑で、簡単に答えが出そうにありません。自分の因縁が直接現われている場合

もあれば、親の因縁によってそうなっている場合もあります。その因縁を知ろうとしても、天眼のない私共には無理かも知れません。しかし、私が今こうして生きていれるのは自分の因縁だけでなく、親の因縁も影響しているということは確かなことです。親の徳を頂いて生かして頂いているということです。

人間というのは不思議なもので、同じ親のもとに兄弟・姉妹が何人かいても、寿命はみな違います。長生きする人もいれば、早くに亡くなる人もいます。自分の不摂生によって寿命を縮めたということもありま

すが、やはり、親から受けた因縁によることも否定できません。

—— 悪い因縁を作らないように ——

すべてが因縁によって成り立つ世界にあつて、自分の今の有様を、ありがたいと喜んで生きている人はいいのですが、どちらかというと、不平・不満を強く抱いている人の方が多いように思います。〴〵思うようにならない。どうして自分だけが……という思いです。

はつきり言つて、自分の今の有様は、過去に自分が作ってきた因縁の現われに外な

りません。ゝあいつのせいでひどい目に遭わされたゝとよく言いますが、決して人がそうしたのではありません。自分がそうなるようにしてきたからゝめでたくゝその因縁が実った、というのが本当です。そのように考えてゆかなければいけません。

日頃から私共は堪忍の大切さを教えられています。法音寺が言う堪忍は、人から受けた辛い仕打ちに対して歯をくいしばり、耐え忍んでゆくことだけではありません。この世に起こることはどんなことも、自分が作った因縁によってそうなっているのですから、腹を立てる必要はさらさらないので

です。人に悪口を言われるのも、だまされるのも、決して人が悪いものではありません。自分が過去に同じようなことをしてあったからそうなっているだけで、私は何も悪いことをしていないのに……と言つて怒るのは間違いです。堪忍以前の問題と言えるかも知れません。

この法則が理解できないと堪忍はしにくいと思います。そこでつい、人を恨み、憎むということになります。それは精神衛生上よくありません。今元気に生きていられるのはありがたいゝと喜んでゆけば何でもないのに、オレガオレガと我を主張して

ゆくと欲の皮がつっぱって、ますます悪い因縁を作ってしまうです。

言葉や行ないが食い違つてゝいやな奴〴〵
 と思う人がいても、決して悪く思つてはいけません。これは、一代を通しての、とても大切な心得であります。こういう心でいれば、〴〵思うようにならないことはあるけれど、それでもありがたい〴〵という喜びが出てきます。たとえば病氣になったとしても、そんなに苦しまなくてもすむと思います。病氣は「氣の病」と書きます。狭い心で愚痴・不足ばかり言っているとなりやすいのです。ゝありがたい〴〵という喜びがあれ

ば絶対病氣にならないとは言いませんが、体が悪くなつても心が健康だったら、大事に至ることはありません。逆に、大した病氣でもないのに狭い心でいると、本当に悪くなつてしまいます。そうなるような因縁を自分が作るのです。

—— 一つだけでも善い因縁を ——

杉山先生は、私共はみな本化の菩薩で、菩薩行をするために生まれてきた〴〵とおっしゃいました。大変なことを言われているように思いますが、これが法音寺信仰の本領であります。

法華經・三徳を聞く人はみな、菩薩行をする使命を帯びているのです。自分のできることでもまわりの人を少しでも喜ばせてゆくことが、法華經の菩薩道・三徳を実行することであるのです。

人を救いなさい。喜ばせなさいと言われるますが、私はとてもそんな身分の人間ではありません。と言う人がいるかも知れません。

救う対象の人をどこに置いてあるかによりますが、今自分の目の前にいる最も身近な人、主人を、奥さんを、子どもを、何か一つだけでも力づけ、喜ばせてあげること

はできるのではないでしょう。それが、大勢の人を救ってこられた安立行菩薩・杉山辰子先生の教え「衆生無辺誓願度」を、自分が実行することになるのです。

人を喜ばせてゆくことは、功德を積むこととです。因縁の世界にあつては、善因は必ず善果につながるのですから、実行できたこと自体が大変ありがたいことなのです。

一度に大変なことはできなくても、一つ一つ慎重に、自分のできることで、言葉で、行ないで人に喜んで頂けることをして、安心を与えてゆくならば、心が落ち着きます。悪い因縁を重ねることは自然になくなると

おも
思います。

唯識論は、人はみな心の病人、と言いま

す。心の病氣は、どんなに精巧な顕微鏡を

覗いても、病原菌は見つかりません。科学

・医学では救えないのです。自分のできる

ことでまわりの人を喜ばせ、力づけてゆく

菩薩行こそが心の病氣を治す唯一の道であ

ります。

怠らずゆかば千里の果ても見ん

牛の歩みのよしおそくとも

コツコツコツコツ、徳を積んでゆきまし

よう。一日一日堅実に、自ら喜んで慈悲・

至誠・堪忍を実行してゆきましょう。功德

さえ積んでゆけば将来を心配する必要は何

もありません。